

令和元年6月27日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03370

研究課題名(和文) 前近代および近代移行期における貨幣と信用

研究課題名(英文) Money and credit in the pre-modern and transitional period

研究代表者

鎮目 雅人 (Shizume, Masato)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：80432558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,700,000円

研究成果の概要(和文)：前近代から近代初期にかけての日本貨幣史の分析を縦軸とし、近代移行期の貨幣システムの国際比較を横軸とする歴史実証的アプローチを通じて、社会内部で貨幣が生起するメカニズムを検討した。その結果、前近代社会において信用に基づき貨幣を提供する内部貨幣の存在が重要であったこと、近代との接続に関して、信用を通じて貨幣を提供する制度が鍵を握っており、その過程で様々な相克が生まれた点が確認された。研究成果は、著書・論文の出版や学会発表等の機会を通じて公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、近代の通貨・金融システムの下では覆い隠されていた信用貨幣の本質があぶりだされた。これは、信用乗数の安定性を前提として、中央銀行が金融政策を通じて外部貨幣を供給し、これが銀行部門の信用創造活動を通じて経済全体に波及していくとの通説的な理解を再検討するうえで重要な示唆を与える。本研究を発展的に継続するかたちで、2018年度より基盤研究(B)「信用貨幣の生成と進化のメカニズムに関する歴史実証」(研究期間2018～2021年度)をスタートするとともに、研究成果公開促進費(データベース)を利用して藩札等の画像公開を進めることで、当該分野における研究のさらなる進展に寄与している。

研究成果の概要(英文)：We conducted extensive research on the mechanism of emergence and development of money in a society. To the goal, we primarily focused on the Japanese monetary history through the 16-19th century, and employed a comparative approach across countries. We have revealed that, in the pre-modern period (up to the late 19th century), the mechanism of providing money through credit (inside money) was vital for the development of monetary economy, and that during the transition to the modern system, the society faced difficulties in transforming the existing system of the provision of credit to the modern one. Members published books and journal articles and presented results of analyses in numerous academic conferences.

研究分野：経済史

キーワード：貨幣史 信用 前近代 近代移行期 内部貨幣 外部貨幣

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近代の社会においては、外部貨幣としての金(金本位制)ないし中央銀行債務(管理通貨制)を支払準備として、民間銀行が信用創造を通じて内部貨幣を供給することで、経済取引に必要な流動性が供給されている。従来の経済理論における通説的理解では、信用乗数の安定性を前提として、中央銀行が金融政策を通じて外部貨幣(ハイパワードマネー)を供給し、これが銀行部門の信用創造活動を通じて経済全体に波及していくとの姿が想定されている。しかしながら、20世紀末から21世紀初頭に日本をはじめとする各国で発生した金融危機と伝統的な金融政策手段の有効性喪失という事態は、通説的理解の再考を迫っている。理論研究の分野では、金融面の摩擦を明示的に織り込んだモデルの構築や、「内生的貨幣供給理論」の再構築を図る動きがみられる。

近代貨幣制度の成立以前やその生成過程においては、金属を中心とする商品貨幣に起源をもつ外部貨幣と社会内部の信用から派生した内部貨幣が、密接に関係しながら流動性の供給が行われていた。この点に関して、欧米貨幣史の分野では、英蘭銀行史における地金論争や銀行主義・通貨主義論争、スコットランドやニューイングランド、南北戦争前の米国諸州におけるフリーバンキングの経験などを題材とする豊富な研究の蓄積がある。しかしながら、欧米以外の地域について、こうした観点から光を当てた研究は、黒田明伸の一連の著作などを除くと僅かである。

日本の貨幣史研究では、長年の研究蓄積を踏まえつつ、近年、貨幣と信用のあり方についての研究が進展をみせている。しかしながら、現状の日本貨幣史研究は、個別研究の蓄積は進みつつあるものの、社会において貨幣と信用が果たしてきた役割を総体的に捉えるには至っていないほか、欧米の研究史とは距離を保ったかたちで行われており、日本の事例を世界史的な文脈で位置づける作業はほとんど行われていない。近年進展しつつある方向での研究をさらに推し進めるとともに、日本の事例を世界史の文脈で位置づけることが求められている。

### 2. 研究の目的

本研究では、前近代から近代初期にかけての日本貨幣史の分析を縦軸とし、近代移行期の貨幣システムの国際比較を横軸とする歴史実証的アプローチを通じて、社会内部で貨幣が生起するメカニズムを検討する。その際、最近における貨幣・金融理論の進展を視野に入れ、社会における外部貨幣と内部貨幣の関係性を念頭に置きつつ、新資料の発掘、既存資料の新たな整理を主眼として実証分析を行う。さらに、その成果を同様の問題意識を持つ海外研究者等と共有することにより、日本経済史の分野に止まらず、グローバルな貨幣・金融史ならびに経済理論における貨幣の捉え方に新たな視点を提供することを目指す。

### 3. 研究の方法

本研究では、商品貨幣に起源をもつ外部貨幣と社会内部の信用から派生した内部貨幣が、社会における流動性供給に関してどのような役割を果たしていたかを明らかにすることを目指す。その際、以下の点に着目しつつ、日本をはじめとするアジア地域の前近代ならびに近代移行期の事例研究に重点を置き、社会の中で貨幣と信用がどのように提供され、それが近代貨幣制度の成立によってどのように変化していったかを検討する。さらに、その成果を英語で発信することにより世界の他地域について同様の研究を行う海外研究者と共有し、比較研究の裾野を広げる。こうした作業を通じ、社会における貨幣の役割について歴史実証的な観点から新たな知見を得ることを目指す。

#### 【日本】

・中世：外部貨幣としての渡来銭と、替状、割符などの信用手段はどのような関係を持ちつつ使用されたか、

・中近世移行期：渡来銭の途絶と従来の信用手段の衰退に際して、どのような対応がなされたか、

・近世：幕府が独占的に供給する外部貨幣としての金銀銭貨と、藩札・私札、両替商をはじめとする商人信用がどのような関係を持ちつつ使用されたか、江戸中期以降の商品経済の浸透の中で、小額貨幣と商人信用の利用にどのような変化が生じたか、

・近代移行期：西洋から輸入された貨幣・信用制度は、どのように受容されたか、紙幣や手形、掛取引など近世以来の貨幣・信用手段はどのように継承ないし棄却されていったか。

#### 【アジア】

・西洋から輸入された貨幣・信用制度は、どのように受容されたか、従来の貨幣・信用手段は、どのように継承ないし棄却されていったか。

#### 【その他の地域】

・欧州、北米、中南米などの事例研究を行う海外研究者との連携を通じて、研究成果の共有と問題意識の共通化を行い、グローバルな観点からの比較研究の基盤構築と概念の一般化を目指す。

### 4. 研究成果

2015年度：研究目的に基づき、主として以下の活動を行った。

(1) 2015年7月にCPPE Workshop on Free Banking in Historical Perspective(東京)を開

催し、以下の海外研究協力者による報告を行った。"Private bank notes, central banking and monetary policy: the case of Sweden" (Lund大学 Anders Ogren 准教授) "Family Networks and the Emergence of a Financial Capital in Antioquia" (Los Andes 大学 Andres Alvarez 准教授)。

(2) 2015年8月の世界経済史会議(京都)で採択された"Free Bankins systems: diversity in financial and economic growth"と題するセッションにおいて以下の研究報告を行った。"The National Banking in Japan as a Layer of the Free Banking System" (鎮目・つる見) "Private notes in the late Tokugawa Japan: the case of the Itami Brewery Guild" (加藤) "The Role of the Bangkok agency of the HSBC in Southeast Asia before 1913" (西村) "Local Paper Monies Ubiquitous Across Early 20th Century China" (研究協力者・黒田明伸) "Chinese Economic Order and Banknotes -1935 currency reform Reconsidered" (研究協力者・諸田博昭)。

(3) 2016年3月の進化経済学会(東京)で採択された「貨幣の質と多様性」と題するセッションにおいて以下の研究報告を行った。「歴史における貨幣の多元性と交換の多様性」(黒田)「貨幣の起源について: 歴史実証の視点」(鎮目)。

2016年度: 研究目的に基づき着実に研究を継続し、その成果を公開した。主なものは以下のとおり。

著書: 高木久史『通貨の日本史』; 安国良一『日本近世貨幣史の研究』

論文: 鎮目雅人「銀貨の歴史: 激動の時代をささえた貨幣」(『第27回東京国際コイン・コンベンション』); つる見誠良「リレーションシップ・バンキングからトランザクション・バンキングへ 理論と歴史サーベイ」(『地方金融史研究』)「アジアにおける覇権通貨ーグローバル化とナショナリズム」(『現代の課題 グローバル化とナショナリズム』); 高屋定美「欧州中央銀行の非標準的金融緩和策が欧州経済に与える影響」『世界経済評論』「英国離脱の背景と欧州統合へのインパクト」(Eco-Forum); 木山実・加藤慶一郎・西村成弘・西村雄志・北波道子『近代アジアと関西経済』(関西大学経済・政治研究所)

招待講演: 黒田明伸(68回法制史学会総会、東京大学; AL XVI-LEA SIMPOZION DE NUMISMATICA, モルダビア国立歴史博物館、キシノウ、モルダビア)

学会等報告: 高屋定美(日本金融学会、武蔵大学) 諸田博昭(the International Conference on Coping with Transnational Crisis、香港中文大学) 西村雄志(第1回世界経営史会議/第20回欧州経営史学会、ノルウェー・ベルゲン大学) Akinobu Kuroda (Workshop The Variety of Exchange and the Character of Money, フランス・パリ高等師範学院)

2017年度: 実証研究の蓄積が着実に進展し、研究成果として、前近代社会において信用に基づき貨幣を提供するメカニズムが重要であったことが確認されたほか、近世と近代移行期との接続に関して、信用を通じて貨幣を提供する制度の連続性に関する実証的な分析の必要性が改めて認識された。研究成果は、著書・論文の出版や学会発表等の機会を通じて公表した。主な研究成果の公表は以下のとおりである。

出版物: 高木久史『近世の開幕と貨幣統合: 三貨制度への道程』、嶋田巧・高屋定美・棚池康信『危機の中のEU経済統合: ユーロ危機、社会的排除、プレグジット』、つる見誠良「戦前の銀行はオーバーローンだったかー預金銀行・発券銀行・合本銀行」、鎮目雅人「貨幣に関する歴史実証の視点: 貨幣博物館リニューアルによせて」、Hisashi Takagi, "Recent Studies of Bronze Coin Integration at the Beginning of Early-modern Japan," Masato Shizume, "A History of the Bank of Japan, 1882-2016," Masato Shizume, "Financial Crises and the Central Bank: Lessons from Japan during the 1920s."

学会発表: 2017年9月30日~10月1日に鹿児島大学で開催された日本金融学会秋季全国大会において「金融業のネットワークの検討: 日本の近世から近代を題材に」と題するパネルセッションを開催し、高槻泰郎、つる見誠良、鎮目雅人が報告した。

社会経済史学会近畿部会において、加藤慶一郎が「日本近世の私札 - 平野郷町を中心として」と題する報告を実施した。

本研究の成果を広く公開するため、2018年度において研究成果公開促進費(データベース)「藩札等に関する統合データベース」を申請して採択され、早稲田大学リポジトリにおいて公開を開始するとともに、東京大学古貨幣・古札統合データベースからの検索を可能としている。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7件)

(1) Hisashi Takagi [2017], Recent studies of bronze coin integration at the beginning of early-modern Japan 『安田女子大学紀要』、査読なし、46、11-18頁

(2) つる見誠良[2017]「戦前の銀行はオーバーローンだったか: 預金銀行・発券銀行・合本銀行」『経済志林』、査読なし、85(4)、727-745頁

(3) 鎮目雅人[2016]「銀貨の歴史: 激動の時代をささえた貨幣」『東京国際コイン・コンベンション』、査読なし、27、20-29頁

- (4) 高屋定美[2016]「英国離脱の背景と欧州統合へのインパクト」Eco-Forum、査読なし、32(1)、19-26 頁
- (5) 高屋定美[2016]「欧州中央銀行の非標準的金融緩和政策が欧州経済に与える影響」『世界経済評論』、査読なし、60(6)、34-41 頁
- (6) つる見誠良[2016]「リレーションシップ・バンキングからトランザクション・バンキングへ：理論と歴史サーベイ」『地方金融史研究』、査読あり、47、104-123 頁
- (7) 高木久史[2015]「17 世紀第 1 四半期の彦根藩經理記録にみる三貨制度成立の一階梯」『安田女子大学紀要』、査読なし、44、73-83 頁

〔学会発表〕(計 19 件)

- (1) 加藤慶一郎「日本近世の私札：平野郷町を中心として」社会経済史学会近畿部会、2017 年 10 月
- (2) 鎮目雅人「銀行間ネットワークと金融市場統合：明治期日本の事例から」日本金融学会、2017 年 10 月
- (3) 高槻泰郎「江戸時代大坂の金融業ネットワーク：大名の資金調達を素材に」日本金融学会、2017 年 10 月
- (4) つる見誠良「日本におけるリレーションシップ・バンキングの展開：機関銀行と合本銀行」日本金融学会、2017 年 10 月
- (5) 高木久史「近世初頭の銭統合をめぐる議論の現状」近世史フォーラム、2017 年 5 月
- (6) Akinobu Kuroda, "The variety of exchange and the character of money," Workshop: The variety of exchange and the character of money, Paris, November 2016.
- (7) Akinobu Kuroda, "Why and how did silver dominate across Eurasia: late-13 through mid-14 centuries," AI XVI-LEA Simposion de Numismatica, Chisinau, Moldova, September 2016.
- (8) Takeshi Nishimura, "The activities of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in the Dutch East Indies before the First World War," World Congress of Business History/Congress of the European Business History Association, Bergen, Norway, August 2016.
- (9) 黒田明伸「貨幣の多元性と市場の多層性：「工業化前」中国、日本、イングランドを中心に」法制史学会、東京、2016 年 6 月
- (10) Hiroaki Morota, "Chinese currency circulation and credit order in the interwar period," International Conference on Coping with Transnational Crisis: Chinese Economic and Social Lives in East Asian Ports-Cities, 1850-1950, Hongkong, June 2016.
- (11) Masato Shizume, "Modernizing the financial system in Japan during the 19th century," European Society for the History of Economic Thought, Paris, May 2016.
- (12) 高屋定美「ECB による非標準的政策の枠組みとその効果」日本金融学会、東京、2016 年 5 月
- (13) 黒田明伸「歴史における貨幣の多元性と交換の多様性」進化経済学会、東京、2016 年 3 月
- (14) 鎮目雅人「貨幣の起源について：歴史実証の視点」進化経済学会、東京、2016 年 3 月
- (15) Keiichiro Kato, "Private notes in the late Tokugawa Japan: the case of the Itami brewery guild," World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (16) Akinobu Kuroda, "Local paper monies ubiquitous across early 20th century China," World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (17) Masato Shizume and Masayoshi Tsurumi, "The national banking in Japan as a layer of the free banking system," World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (18) Takeshi Nishimura, "The role of the Bangkok agency of the HSBC in Southeast Asia before 1913," World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (19) Hiroaki Morota, "Chinese economic order and banknotes: 1935 currency reform reconsidered," World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.

〔図書〕(計 9 件)

- (1) 木山実・加藤慶一郎・西村成弘・西村雄志・北波道子[2017]『近代アジアと関西経済』関西大学経済・政治研究所、111 頁
- (2) 日本銀行金融研究所・鎮目雅人・小林延人[2017]『常設展示リニューアルの記録』日本銀行金融研究所、100 頁
- (3) Rodney Edvinsson, Tor Jacobson and Daniel Waldenstroem, Masato Shizume, et.al [2017], *Sveriges Riksbank and the History of Central Banking*, Cambridge University Press, 507 pages.
- (4) Hugh Rockoff, Isao Suto, Masato Shizume, et.al [2017], *Coping with Financial Crises: Some Lessons from Economic History*, Springer, 192 pages.
- (5) 高木久史[2017]『近世の開幕と貨幣統合：三貨制度への道程』思文閣出版、304 頁
- (6) 高木久史[2016]『通貨の日本史』中央公論新社、258 頁

- (7) 横浜商科大学公開講座委員会編・つる見誠良[2016]『現代の課題 グローバル化とナショナルリズム』南窓社、190頁  
(8) 安国良一[2016]『日本近世貨幣史の研究』思文閣出版、306頁  
(9) 高屋定美[2015]『検証欧州通貨危機』中央経済社、225頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

早稲田大学研究者データベース：鎮目雅人

<http://researchers.waseda.jp/profile/ja.072d90a1af5e0fcb4f4a0a4c69c3be78.html>

藩札等に関する統合データベース(早稲田大学リポジトリ)：

[https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=3034&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page\\_id=13&block\\_id=21](https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=3034&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21)

東京大学古貨幣・古札統合データベース：

[https://www.i-repository.net/ii/meta\\_pub/G0000381kahei](https://www.i-repository.net/ii/meta_pub/G0000381kahei)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：加藤 慶一郎

ローマ字氏名：Keiichiro Kato

所属研究機関名：流通科学大学

部局名：商学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：60267862

研究分担者氏名：高木 久史

ローマ字氏名：Hisashi Takagi

所属研究機関名：安田女子大学

部局名：文学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：50510252

研究分担者氏名：高屋 定美

ローマ字氏名：Sadayoshi Takaya

所属研究機関名：関西大学

部局名：経済学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：60236362

研究分担者氏名：つる見 誠良  
ローマ字氏名：Masayoshi Tsurumi  
所属研究機関名：法政大学  
部局名：比較経済研究所  
職名：研究員  
研究者番号(8桁)：10061227

研究分担者氏名：西村 雄志  
ローマ字氏名：Takeshi Nishimura  
所属研究機関名：関西大学  
部局名：経済学部  
職名：教授  
研究者番号(8桁)：10412420

(2)研究協力者

研究協力者氏名：岩橋 勝  
ローマ字氏名：Masaru Iwahashi

研究協力者氏名：黒田 明伸  
ローマ字氏名：Akinobu Kuroda

研究協力者氏名：高槻 泰郎  
ローマ字氏名：Yasuo Takatsuki

研究協力者氏名：諸田 博昭  
ローマ字氏名：Hiroaki Morota

研究協力者氏名：安国 良一  
ローマ字氏名：Ryoichi Yasukuni

研究協力者氏名：オグレン アンダース  
ローマ字氏名：Anders Ogren

研究協力者氏名：アルバレス アンドレス  
ローマ字氏名：Andres Alvarez

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。